

2014.3.2 1730～22:00

WS 『311 後の報道・情報 ～あの時、人々はどう動いたか～』

於 銀河のほとり

岩田 前は 2/14 にリスクコミュニケーションと健民健康管理調査についてのワークショップを行い、これまで現状がどのように過小評価されてきたかということをお話で話した。

具体的なリスクのあり方についてはたどりつけなかったが、ひとつ例をあげると、最近、日本医師会と日本学術会議でシンポジウムがあった。その際、日本医師会のシンクタンクは福島県外の健康調査についても言及していたが、それがNHKの報道になると、「福島県内では健康調査をさらに進めて行かなければならない」と変わる。つまり、県内調査の健康影響について語ることはある程度OKだけれども、県外については、もはやタブーだと。

3/11、事故の日が近づいてくる。報道の検証をする必要を感じている。

DAYS JAPAN が検証した 311 後の報道の特集が非常によくまとまっている (2012 年 4 月号)。テレビは、新聞はどのように報じたか、ツイッターやブログではどのように語られたか。これと同じことをしたいわけではないが、自分たちがとった、自分たちのまわりの人がとった行動は情報に翻弄されてきたということが多々ある。政府の情報を信じたために、あるいはインターネットの情報を信じてしまったために。

そうした情報を、これから自分たちがどのように検証し、どのようにつかみとって自分たちの行動に変えて行くか。そういうことにつなげていってもらえれば幸い。

まず自分の 3.11 後の行動について話す。そのあと質問やディスカッション、そして食事休憩のあと、岩波の「科学」で発表した被曝をめぐる時系列表に、3 月の時点から自分たちの記憶にある情報、そのとき信じていた情報が正確であったかどうかを振り返って、一時情報にあたりたり・・・という作業をしていきたい。

まず、私のケースをお話させて頂く。

3 月末に測定器で石巻から山梨まで東北道をはかっていった。二本松のデニーズで空間線量毎時 84.8 マイクロシーベルトあった。

測定のためには測定器が必要だということで、山梨の友人たちと測定器 47 台プロジェクトを立ち上げたが、なかなか測定器が手に入らなかった。そのころCRIRADとつながり、彼らが機材を提供してくれた。

それと同時にもうひとつやっていたのが、そのCRIRADというフランスのNGOに報告するために、いま何が起きているかを伝えること。相手は所長ブルーノ・シャレイロン。彼は正確な情報、あるいはメディアの報道を裏付ける情報を求めてくる。自分の渡す情報に不正確さがあれば彼らの報告する情報も不正確になってしまう。これは情報を検証するための、非常にいいトレーニングになった。

- 1、正確さ。
- 2、出典。誰が、どこが流している情報か。特に健康影響については解釈がついてまわるため。
- 3、複数の異なる情報。日本を知らず現地にいない人でも状況を理解できるだけの情報であるかどうか。
- 4、誰がそれを信じているか。  
専門家がどのように言っているか、それをメディアがどのように言い換えているか、それが人々にどう伝わっているか、結果、人々の認識がどのようなものであるか。どのようにコントロールされているか。

3月当時、ツイッターでいろんな情報があったが、その出典が書いていなかったことが多かった。書いていなければ出典を調べる。

例えばCRIRADから、「東電から〇〇と発表されているけれどもこれは本当か」と聞かれた場合、まず東電のもとデータにあたる。そして、政府発表でどのように発表されているか。それから主要メディアの報道にあたる。そしてそれらに載っている御用学者の見解と、それと異なる非御用学者の見解にもあたる。その学者のこれまでの研究やバックグラウンドにあたることも。

ツイッターやネットで異なる情報が流れてくる場合もある。気になる情報があれば、やはり出典をさぐったり、ツイートした人が見たであろう一次情報にあたる。出典がわからなくても、人々が信じてると思われたときにはなぜ信じられているかを考え、そこに自分の主観を付け加える。よくわからないときは「よくわからん」と付け加える。

情報がどう変質していくかの簡単な例をあげる。

福島民報友が2013年10月8日、「20mSv以下、健康影響なし」というヘッドキャプションをつけた報道を行った。なぜこのような報道に結びついたか？

10月に調査来日したIAEAが概要報告書を発表し、環境省がその報告書のポイントと政府の方針をまとめた。その後、産経、読売、福島民報が、「20ミリシーベルト以下健康影響なし」などの報道を行う。

その報道の後、11月20日、原子力規制委員会が「帰還に向けた安全・安心対策に関する基本的考え方」を発表する。そこにはICRPが2011年3月中に勧告した「年間1~20ミリシーベルトの線量域の下方部分から選択すべきである」や「長期の事故後では年間1ミリシーベルトが適切である」という見解が載っている。

にもかかわらずなのになぜ「20ミリシーベルト以下健康影響なし」といった報道になるか？人々の記憶に残るのは見出しのみである。報道がちからを持つのはそれを信じる人々がいるから。

瀬川 3月末に線量計を持っていた理由、山梨から福島へ行った理由は？

岩田 最初南相馬に行こうとしていたが、何のつてもなく行けるかどうか分からない状態で、最初は知り合いの石巻の支援チームについていった。知り合いが手に入れた線量計を持って行ったが、10日くらい経ってたけれども石巻ではまだ食料にもありつけていない人たちがいて、当初は線量をはかるどころではなかった。その帰りに東北道のPAの土壌(植え込み)を測定して行って、福島の二本松に立ち寄ってから、八ヶ岳の方まで行った。

100キロくらい離れても土壌の汚染はかなりあることがわかった。

この作業で、最終的な目標は設けていません。その時の状況の記憶を掘り起こしてみたり、井戸端会議的にやっていきたい。報道資料をとっかかりにしたり、今月号のNewtonでもタイムラインが載っているので参考にしながら。

鈴木真 このあとは雑談形式で、あの時ああいうことがあったなど検証していきたいと思います。

鈴木則 3/11夜中、郡山市の防災課の人が自転車で放送局にやってきて、12日に開成山に災害対策本部をつくるので来てくれと言われ、市の対策本部の発表を発表するという役目を仰せつかり、サテライト放送の一式を持って行った。

当時は放射能対策本部という意識はまったくなく、地震対策本部。郡山市には線量計さえなかった。自衛隊の人たちが持っていた線量計、ガラスバッチのようなポケットに入れるタイプの線量計のみ。単位はミリシーベルトしか出てこない線量計で、対策本部のなかで自衛隊の人がその数値を発表して「これは安全な数値です」と毎回言っていたのが印象にのこっている。

浜通りから30キロ圏内の人たちが避難してきた人々がいたが、いったん災害対策本部

にきても、市は関知せずという姿勢。まず自衛隊のスクリーニング検査を受け、必要な人はシャワーを浴びさせられて、必要のない人は県立高校に行くよう指示されるが、そのことは報道させてもらえない。県の情報なので、県立高校のどこに〇〇町の人が何人避難してきたということは一切発表してはいけないと。

岩田 確認します。県立高校に避難するなどの具体的な情報は発表してはならない？これは誰が言った？

鈴木則 市長です。市の対策本部発表とされては困る、ということ。県がやっていることは県の対策本部から裏を取って発表してくれと。

橋本夫 当時妻は高校生だったが、高校が避難所になっていた。

橋本妻 家に帰れない人たちとよそから来た人たちがそこに集まっていたと聞いた。学校は休みだったけれども、始める時期になってもまだいたから、ここからここまでは入っちゃダメというのが決められていた。

岩田 ちなみに学校の名前を教えてください。

橋本妻 福島県立郡山萌世高校。そのあとはビックパレットへ避難したとのこと。

森園 我が家は郡山久留米6丁目だったんですけど、断水していた。

鈴木真 当時は放射能をどう思っていた？

森園 放射能は怖いという意識あったが、何よりおさまらない地震が怖かった。避難も考えたけれど、猫が2匹いてあきらめた。

鈴木真 地震による避難？

森園 いえ、放射能。

当時は間違った情報をインターネットからいっぱい引っ張っていた。

3/20 頃、インターネットで、「弟子を連れて福島に入りました。これから第一原発の方に行きます」とみたいな情報をずっと発信していた人がいて・・・

岩田 19日から20日に変わったばかりのとき。副島隆彦さんがブログで「原発から8キロのところまでつけました。わずか15マイクロシーベルト毎時であることを確認」と。  
<http://www.snsi.jp/bbs/page/1/view/1451>

森園 ええ、大丈夫なの？入れちゃうんだ、と。その後武田（邦彦）先生の発信や、きくちゆみさんの発信など。新聞はとっておらず、他はテレビの情報だけだったので・・・。  
これらで3月中はぐるぐるまわっていた。

岩田 「こんな微量の2～10マイクロシーベルト毎時の放射能なんか、私たちは、がぶがぶ食べて、慣れきってゆけばいい」（前掲のブログより）

ワタナベ息子 ツイッター上ではそれなりに情報がでて、海藻を食べると放射能被曝をおさえることができるなどいろいろ情報があった。学生は正しい情報があっても正しい情報かどうか読み取れなくて、1号機や2号機が停止と聞いても具体的にそれがどういうものか分かっていなかった。正しい情報を手に入れても自分にどう役立っているのかわからない。自分にはなにも影響がないのでなんでもいいかという気持ちになっていた。

転校する人も少なく、逆に自分の高校に転校していた女の子がいた。浜の方に住んでいて父親を亡くした子。

自分に影響が出たのは水とまったとき。水が出てからも砂まじりの茶色い水。給水車の水も茶色い。シャワーも砂まじりの状態で洗った。

自分たちが死なないようにするための物資を集めるばかりで、情報を集めることもしなかった。

当時は高校1年生。高校入学したばかりだったんで、高校生活に対して夢見てるような子ばかり。だからすぐ逃げたりとか考えたりする人いなかった。

ワタナベ母 私は15日、ライブで映像を見て本能で怖いと思って、一緒に逃げようと息子に言ったが、高校になってやっと充実した学校生活がはじまっていた息子は絶対いやだと。

娘なら羽交い締めにしても連れて行ったと思うが・・・。友達同士でもいいから県外へと頼んだが嫌だと。

あとは、「ラジオ福島を聞いてごらん、すごい人が来てるんだよ」と友達から言われた。山下教授のこと。ラジオ福島のアナウンサーもすごいと言っていた。「外で遊ぶのも大丈夫」「ニコニコしてれば大丈夫」「マスクは花粉症の人ならすべきだけれども、でなけれ

ば必要ない」 それをメモった記憶がある。

岩田 ラジオ福島のアナウンサーが山下さんについて語っていたのはいつごろ？

母 三月末でしょうね。女性アナウンサーと男性アナウンサーが「すばらしい方が来て下さる」と言っていた。確か「正しい安全」と言っていた。それを信じていた。

実母が磐梯熱海のリハビリ施設にいたこと、ガソリンがないことなどで避難は考えにくかった。安積町のベニマルが近くにあって、ベニマルでカイグウシャ（介護車両？）がベニマルに行って大量買いついて、どこかに行く姿をよく見ていた。熱海のリハビリ施設の職員から、次の爆発があったらお母さんを新潟に避難させていいですかという承諾をとる電話がきてありがたかった。

外資系の会社（ジョンソン&ジョンソン）が 3/11～1 週間のうちには家族ごと県外に一時的に出ていた（会社から避難命令があつて）。

ご主人が県職員の方は、12日には、逃げろと身内に言っていたらしい。

男性 福岡から昨年7月から福島市に来ていて、「花見山を守る会」という団体にいる。テレビや新聞からの情報しかなかった状況で、福島は怖いな、というイメージ。

女性 私は埼玉在住。反原発の運動とかをやっていた。原発事故があつたらどうすればいいかなども頭にあり、地震があつて、テレビの報道で「安全だ安全だ」と言われはじめたときから危ないと思った。民放では爆発の様子が映った瞬間があつたのに、NHKでは何も言わなかった。これはおかしいと思い始めた。

日にちはわからないが、原子力資料情報室が情報を発信しはじめた情報を一生懸命聞いていた。

高校生の娘だけ関西へ新幹線で逃がした。3/15 朝、小さいお子さんをつれたお母さんたちが西へ西へって新幹線にのっていたそう。

関 女房、4人の子ども、猫と二本松に住んでいた。311 当時は仕事で障害者の施設にいた。次の日から仕事は休みになったけれども、施設長は、こういうときこそ施設を明けなさいいけないというので、出勤。自分に入ってくる情報はテレビとラジオだった。

爆発の翌日の土曜日、燃料を買いにいっても、6時間待っても買えない。○○のガソリンスタンドは何時ごろ開くらしいよという噂があるとみんながすーっと行ってしまった。

ご近所の娘さんがアメリカの軍人と結婚していて、「お母さんとにかく逃げろ」とアメリカから電話がきた。アメリカでは80キロ圏内は避難と言っていると。

情報がぜんぜん分からない状況で、なんかやばいことあるだろうと思っていた。長年原発の反対運動してきたが、〇〇マイクロシーベルトとか言っても実感がなかった。人脈をたどってとにかく電話をして、ようやくつながったらみんなもう逃げており、「関さんとにかく逃げて」と。

とにかく情報を集めた。家中のガラスを目張り、食料の確保、飲料水の確保、薪の確保など。ありとあらゆる人に助けてと連絡した。国とかの情報は鼻から当てにしていなかった。

100 キロ行けば大丈夫というので、真面目に自転車購入を考えて自転車屋へ行った。しかしみんな買いに行っていて、在庫がなかった。

職場のバイオ燃料を譲り受けて子どもたちだけ 15 日に逃がした。しかし長男は公務員のため残り、自分も「原発のことを知っている人間は最後までいなきゃなんねえ」と、逃げなかった。

家の近くの男女共同参画センター？に、3 分置きくらいに浪江からのヘリが飛んできた。センターに行ってみるとみんなスクリーニングを受けていた。そうすると二本松には噂が流れて、「関さんあそこには行かない方がいい。あそこには被曝者がいる」と。

松本 静岡在住。12 日、伊豆修善寺（静岡）からいわき入り。アナログのカウンターと 2000 人分のヨウ素剤をいわき市の避難所の市の職員のところへ持って行った。しかし「こういうものを持ちこむと、放射能汚染していることになってしまうからやめてくれ」と言われた。

岩田 確認。役所の方が「ここが放射能汚染されてしまっって・・・？」

松本 「ここが放射能に汚染されているということになってしまうから困ります」と。浜岡に何かあったときのために買い溜めしておいたヨウ素剤だった。

鈴木真 3/12 に 2000 人分のヨウ素剤がいわきに行っていたという情報は非常に貴重なお話。

有馬 銀河のほとりは、前の店舗から引っ越しをして、いろいろ申請を終えて許可が下りたのが 11 日の午前中。携帯にいろいろ連絡が来て、2 日目くらいには郡山職員の家族を秘密裏に県外に逃がした、という情報や、三春町がヨウ素剤を配り始めたという情報が入ってきて、3 号機のプルサーマルも温度があがったというときに、主人と県外に出ようとしたが、燃料がころもとなくて、北は行けないと思い南下してしまった。

みんなと情報を共有したいと思い、「いまから避難します」と発信するようにした。そうしたら、東京に住んでいる妹から、「そんなことをmixiとかで言っていたら、子どもたちが学校でいじめられるでしょう」と言われてすごくショックだった。東京の人には分からないのだなあと。

23 日くらいにはこちらに戻って、支援物資を受け取ったり、小さい避難所に必要物資を届けてもらったり。大阪のまーちゃんが、お母さんや子どもを連れて大阪に連れて行くバスを出してくれたが、行った人は 5 本の指で間に合うほど。

相馬に支援物資を届けた仲間が帰ってきて、放射性物質を払うなどせず迎え入れてみんなが集まっていたとき、いままで味わったことのないような、鉄の味がした。そのときはわからなかったけれど、その後スリーマイルなどの話など聞いてから、あれだったのかと思った。

佐藤 川俣在住。当時、飯野の職場で事務をしていた。情報はカーラジオで得ていた。「津波がきます。車を置いて走って逃げて下さい」というアナウンサーの声を聞いた。

渡利地区の支所で津波の映像など見ていた。

利用者さんの車と自分の車のガソリンを満タンにして帰って、避難したのが 11 日の夜中（最初は福島市へ）。子どもたちは 12 日の夜逃げたと思っていたが、13 日朝だった。

12 日夜中（22 時か 23 時頃）ラジオで、東電の社員か、福イチの作業員を撤退させるというニュースを聞いてまずいと思った。13 日の朝、ヘルパーも一緒に山形に避難させた。

12 日の時点でもう 6 時間くらい並ばないとガソリンがなかった。ガソリンがないとヘルパーを派遣できないから、なんとかとお願いしたが、緊急車両（消防、救急車、パトカー、市町村の車）を優先された。川俣町のエネオスでは県警が買い取ったから一般車両には入れられませんとはっきり言われた。

3/17、広島に避難した人が広島でスクリーニング受けて、すぐ電話があった。「靴底がひっかかったから靴すてて、新しい靴を買った」と。しかし 23 日以降に、私も川俣のスクリーニングを受けたら、なにも引っかからなかった。3/17 以前に、福島県民だけスクリーニング検査の数値を引き上げられていた。

岩田 3/13 福島県民は身体除染のレベルを 10 万cpmに引き上げ

佐藤 だから広島だけでひっかかった。

3/15 以降、20 日近くだったと思うが、川俣の薬剤師会が、（おそらく）県の薬剤師会から、ヨウ素材を配る準備をするように指示を受けた。



3/31、広島大学から来た神谷研二氏が、福島県学校教育の健康リスクアドバイザーへの就任記者会見を行った。ある女性記者の「いまの福島で子どもたちは外で遊んでも大丈夫ですか？」という質問に、「屋内退避の指示がでているところはダメだけれども、それ以外の地域の子どもたちはそこでマスクなしで阿蘇で大丈夫」と答えた。

井上 新潟なので、津波の映像ばかりリピートされていて、放射能の情報は満足に入らない半月をすごした。しかし3月末の田中優さんの勉強会で「やばいんじゃない」と思い、そこからふくしまへの日々が始まった。

3月に福島で起こっていたことでショックだったことが3つ。

①3/11の22時台に原発がメルトダウンしているということを東電社員が政府に報告していたということ(田中優さんに資料を提示しながら教えてもらった)。我々が知ったのは2ヶ月後。

②福島県の医師会が福島県内の医師に、個人的に放射能の影響を診察する行為や支援活動を禁じたという情報を、看護師の奥さんを持つ知人から聞いたこと。

③3/29に福島に入ったとき、飯館村役場で災害対策本部のひとたちと話した。子どもたちはどれくらいいるのかと聞いたら、「いま現在200名います。いま続々と帰ってきています」と返答されたこと。

瀬川 3/12、水素爆発の映像を、原子力資料情報室の伴さんと西尾さんが出演していた日テレの番組で見た。みんな何が起きているのかわからず、伴さんが「おそらく水素爆発だろうから、これで(放射能)大量放出にはならないでしょう」といったことを、うろ覚えだが、言っていた。パソコンを持っていなかったため、情報はテレビだけだった。

岩田 早稲田の伊藤教授という、3/11~17にかけての当時のメディアの報道を記録していたひとがいる。その伊藤教授と上杉さんへの海外メディアによるインタビュー。

<http://besobernow-yuima.blogspot.jp/2013/03/311.html>

「1号機が爆発した時、FNNが2分後に報道した。その時点ではその意味するところが分からなかったため、その映像を差し止めるという考えはなかった。福島の住民がこれを見てパニックになったという事実はない」「日本の大手放送ネットワークに、迅速に報道するように繰り返し依頼したが、日テレ、フジ、NHKは報道するまでに1時間10分かかった」

これらのテレビ局が同時に報じたというのが非常に怖いところ。彼は「偶然の一致とは考えていません」と言っている。

この記事で、ひとつ確認したい情報がある。「3月15日か16日頃ですが、中央政府が

福島市に 40 万の住民を避難させたいかと直接たずねました。福島市は拒否しましたが、メディアはパニックを起こすと恐れて、これを報道しないと決定しました」という記述がある。

福島市には 40 万人も人口がないため、福島「県」の間違いである可能性がある（質問しているのは外国人記者）。しかしもし市であったとしたら、避難政策が広がってきても特別避難勧奨地区の制定は伊達市で止まって、渡利地区は放置されたことを考えると、やっぱり県庁所在地である福島市の住民が流出してしまうことを防ぎたかったのではと考えられる。もしこれに関してもっと情報あれば・・・

友人の医師から、3/14 夜中に新幹線が那須塩原まで開通したという放送が突然あって、これは「暗に逃げろということなんじゃないか」と考えて、避難の日を繰り上げて家族と逃げたという話も聞いた。

小倉 あのときは福島県境から関東側の交通が一気に復旧した。高速も那須まで行けるようになった。

ちなみに栃木では直後は原発の情報はほとんどなかった。トラックの運転手が情報がはい。トラックの長距離運転手がみんな東北から西に逃げた。

佐藤 東京の薬の営業マンの人から、爆発直後に病院まわりをしたら、レントゲン室のフィルムがぜんぶ感光してしまっていたという話を聞いた。東京も危ないから逃げろよと言われた。

岩田 全部とはいわないまでも、感光したという話は他でも聞いた。

鈴木則 浜通りから避難してきた人たちは、誰の指示でもなく、自分たちで郡山に来ている。でも、まったく指示がないわけではなく、役場などが「郡山へ行ったらどうか」と促している。このとき、県外避難したのは井戸川町長だけ。このときの状況が、福島市や郡山市の人が避難しにくい状況をつくりだした。郡山の人、「浜通りの人が避難してくるんだから郡山は安全だろう」と考えた。

最初に国と県との間で何か密約があったのかと思えてならない・・・。県からの人口の流出を、いくらなんでもあの時考えるかなあと思えるが。

男性 2 会津はライフラインが絶たれるということではなかった。ただガソリンスタンドで行列ができてガソリンがなくなってしまうというのは会津でも同じでした。

会津では「風評被害には困ったね」と盛んに言っていた。放射能は危ないという話をしにくいのは浜通り中通りと一緒だったが。

自分はずっとラジオを聞いていた。3/12 か 13、新聞の科学記者のひとが「仮に原発がメルトダウンするという最悪な状況を想定しても健康被害はありません」ときっぱり言っていた。ラジオでそんな風に言われると、人間弱いもので、あれ、大丈夫なのかなと。でももしかしたら国は嘘をついているのかなとか。ちんぷんかんぷんだった。

ちょうど町内会でどぶ掃除をする月だったが、どぶには放射能がたまっているので中止になった。でも中通りの知人はどぶ掃除をやったと・・・

森園 いや、中止になりました。

鈴木真 郡山は中止。地域によってやったところもあったのかも？

岩田 風評被害という言葉が最初にでてきたのは？

男性 双葉郡から避難者が来ている会津の避難所に、関西の人が支援に来たとき、「会津は安全なのだから、はやく風評被害を払拭できるように関西でがんばります」と言っていたときに、(風評被害という言葉)はじめて聞いた。

渡部 3月なかば前後に政府がいっせいに「風評被害」という言葉を使って、それが報道された。

佐藤 福島県が言い出した言葉と聞いた。

渡部・岩田 最初に聞いたのは官房長官会見で。

鈴木則 僕が最初に耳にしたのは、4/1 に郡山市へ西田敏行さんが来て、スーパーで野菜食べていた時、原市長が「風評被害」という言葉を使った。

岩田 3/19 の時点で、「風評被害をなくすために」ということを武田(邦彦)さんが言っている。

[http://takedanet.com/2011/03/post\\_3cdd.html](http://takedanet.com/2011/03/post_3cdd.html)

千葉 いわきではいちばん最初にダメージを受けたのは浜通り。とにかく津波の衝撃のほ

うが大きかった。

そのあと放射能が問題になってから中通りに避難すると、「スクリーニングしてきたの？」と言われた。子どもが体調悪くなり病院に行くと、浜通りから来た人は受け入れていない、放射能の被害には対応していないと。

いわきでは初期被曝の問題があとから浮上したけれど3月の時点ではまったく把握されていなかった。3月末くらいには、避難していた人たちところに、普通に学校をはじめると知らせが来て、戻らざるを得なくなったという状況があった。

岩田 行政からいちばん最初に伝えられたことは？

千葉 私はわからない。地域によっては、消防団が「家の中にいてください」とまわったところもあったようだが、私の地区ではなかった。

岩田 原発から何キロくらい？

千葉 50キロくらい。

ヨウ素剤、いわき市は備蓄していたけれども、配り始めたのは3/18以降だった。12日に佐藤かずよし議員がヨウ素剤を配るようにという要請をしたが、市長はそれを拒否。

あのと判断していれば無駄な被曝は避けられたというのは確実に言えること。

岩田 間接的に聞いた話だが、三春の町長がその(ヨウ素剤を配る)判断をしたのは、大熊から来た人が準備をしていたのを見て、あれは何だとなって、服用を決めたとか。

柳沼 (視聴者より) ヨウ素剤に関して、「福島が三春町に対しては強い指示を加えたので、他の自治体の市長は表面的には配布したと言えませんでした」

岩田 「不安を煽る」という言葉はいつくらいから言われだしたのだろう。

柳沼 (視聴者より) 「うちの町は職員だけヨウ素剤飲んでたよ」

鈴木真 どこ町ですか？

男性2 ヨウ素剤が欲しくて三春までもらいにいった郡山のお母さんがいると聞いた。

鈴木真 ネットでの情報で3月16日に避難した。海外の友達とFacebookでつながっていて、海外からの情報が非常に重要だった。友達はみんな海外に退去している、東京であれ大阪であれみんな逃げているんだから福島にいちやいけないと言われて避難を決めた。海外からの情報しか信じられないと思っていた。

テレビやラジオの情報を信じている、福島に残った人たちから「逃げなくたっていいんだよ」と連絡をもらうことがよくあった。

岩田 次回までに車の放送をだれが発信していたか突き止めて。

関 自分は4つの指針を立てて発信していた。

- ①放射能の情報を外から入れてくれ
- ②マスクやかっぱを支援しえくれ
- ③逃げたい人たちに対する支援をしてくれ
- ④食料などの支援物資を送ってくれ

やってくる情報だけじゃなくて、キャッチする能力がないとこれからやっていけないのでは。何の情報もないときに何を基本の考え方にするかは生き抜く上で大事な事。根源的なことを考えないと情報に結局踊らされて終わる。

森園 3/16 葉山の給水所ではトリチウムだかストロンチウムだかが検出されていて、それに気付かずに行ったらがらんとしていて誰もいなかった。つまり3/16 早朝までに、その情報が新聞テレビラジオ、なんらかで放送されたはず。我が家は新聞をとっていなかったからわからなかった。

あとは、3/11 からちょうど葉山のマンションをリフォームする予定で、さすがに延期になるだろうと思ったら3/12~19でリフォームした。

岩田 ある行動に結びついた情報はあれど、多くの情報があれば決定できるわけではない。関さんが言ったように、何が自分の行動を決定するのかというのがとても大事。大量の情報は逆にゼロに等しいと最近考える。情報をいかに使うか。

有馬 ひとつ気になっていることが。確かこのあたりは4/6が始業式だった。誰がそれを決めたのか分からない。汚染の具合を学校でちゃんと測ったか気になっていたのだけれども、記憶では、始業式はじまってから測って新聞などで発表されていた気がする。そこらへんの記憶があつたら教えてほしい。

森園 3/15 に高校受験の発表があつて、県立高校の受験発表に行かなければいけなかった。子どもたちはみぞれのなか、自転車で行っている。

千葉 4/6 が入学式で 4/7 が始業式。郡山は遅らせた。

佐藤 (日取りは) 各市町村の教育委員会が決めた。

岩田 メディアでは発表していないが、4/4 の段階でモニタリング実施計画、4/6 に(モニタリング結果を)発表している(県のHP)。

4/5~7 に測定したあと、4/9、文科省から学校再開について助言を求められた原子力安全委員会は目安を「年間 1 ミリシーベルト」と提案している。しかし文科省はそのあと、「年間 20 ミリシーベルトが目安」と発表。

4/13、安全委員会は「それでも再開の目安は内部被曝を考慮して年間 10 ミリシーベルト」と記者会見で発言するが、4/19、年 20 ミリシーベルトに相当する毎時 3.8 マイクロシーベルトを学校利用の暫定的目安とするよう、文科省から教育委員会へ通達。

柳沼 (視聴者より) 福島県が文部科学省に学校再開に関する方針の提示を 3 月中から何度も要求していた。

また、高校の合格発表は 3/16。各学校に放射線量計は配られていなかったが、学校は 16 日に合格発表をすると、14 日に決定。

岩田 4/22、日弁連が「福島県の学校等の校舎等利用判断における暫定的考え方について」を発表している。そのときの会長が宇都宮健児さんだった。

[http://www.nichibenren.or.jp/activity/document/statement/year/2011/110422\\_2.html](http://www.nichibenren.or.jp/activity/document/statement/year/2011/110422_2.html)

千葉 PTAの上層部の人にきいたら、(学校再開を)決定した理由は「そういう大変な事態において学校をやらないという決まりがなかったから」

岩田 インフルエンザだと閉鎖されるのに・・・

3/21 日本気象学会が会員の研究者らに、大気中に拡散する放射性物質の影響を予測した研究成果の公表を自粛するよう求める通知。

同じ 21 日、これは朝日新聞の見出しですが、「ICRP書簡 政府に対し被ばく限度量の緩和を提案 移住回避を促す」(年間 20 ミリシーベルト)

そしてやはり同じ 21 日、山下氏が福島市内で「毎時 100 マイクロシーベルトを超さな

ければ健康に影響を及ぼさない」と講演する。のちに福島県のHPで「10 マイクロシーベルトの間違いでした」と訂正されるが、これは嘘。当時ラジオで彼は「20 マイクロシーベルト以上でも大丈夫だと分からないなんて・・・」という発言をしている。

小倉 福島で発表された線量の単位が不明確だった。

岩田 当時、浪江町にそのまま居続けた人がいたという2ちゃんねるの記事を見た。「朝起きたら鼻血まみれだった」とか、「ジョギングしたら気を失うレベルでやばい」とか。

<http://news020.blog13.fc2.com/blog-entry-1411.html>

鈴木 県から山下氏の講演の音源がきて放送してくれと、ラジオ福島が編集したものが送られてきて、放送してしまった。内容は「笑っていれば安全」など。

森園 去年の暮れに、(東日本大震災のとき)東海村でペントを170回行ったという情報を目にした。新聞だったか雑誌だったか……。東海村もペントを170回もやらざるを得ない状況だった。つまり東京の汚染は福一だけのものじゃないのでは。

岩田 「原発の電源は断たれ、非常用電源3台のうち、1台が津波でダウン、原子炉内が高圧になり危険でしたのでペントを170回行いました」と東海村村長が講演で話しているよう。これはブログだけれどメディアが報じたものもあったのだろう。

<http://www5.hp-ez.com/hp/ooami/page4/bid-246076>

鈴木真 そろそろ・・・

本日は長い間おつきあいくださいましてありがとうございました。貴重な時間だったと思う。今日はここで終わらせて次回に続けたいと思うので、皆さんお集まりください。今日のことをお持ち帰りいただいて、こういうことがあったと伝えてください。お疲れさまでした。